

いわき市立美術館

IWAKI CITY ART MUSEUM

所在地——福島県いわき市平字堂根町4-4

建築主——いわき市

設計者——(株)佐藤武夫設計事務所

施工者——三井建設株式会社

常磐開発株式会社

株式会社加地和組

竣工——1983年11月30日

location——Iwaki City, Fukushima Prefecture

owner——Iwaki City

architects——Sato Architects and Engineers

contractors——Mitsui Construction Co., Ltd.
Jyoban Development Co., Ltd.
Kajiwa-Gumi Co., Ltd.

completion date——November, 1983





正面広場 Front plaza.



北面全景 North side.



エントランスホール Entrance hall.



常設展示場 Standing exhibition room.



企画展示室 Periodical exhibition room.

建築概要

敷地面積 3,346㎡
 建築面積 1,932㎡
 延床面積 4,380㎡
 構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨鉄筋コンクリート造
 規模 地下1階 地上3階 塔屋1階
 外部仕上げ 屋根：アスファルト防水断熱工法
 押えコンクリート金ごて仕上げ 外壁：30mm花崗石（ジェットバーナー仕上げ）張り 乾式工

法

内部仕上げ エントランスホール 床：花崗石（ジェットバーナー仕上げ）張りウレタン系塗装 壁：花崗石（ジェットバーナー仕上げ）張り天井：GRCアクリル系塗装 展示室床：カーペット敷き 壁：合板下地キャンバスクロス 天井：格子天井 収蔵庫 床：木下地ぶなフローリング貼り 壁：木下地杉板目透し天井：木下地杉板張り

設備概要

電気 受変電：受電電圧3相3線6.6KV 変圧器容量575KVA 契約電力333KW
 空調 熱源：吸気式冷温発生機（ガス焼き）1台 水冷式チーリングユニット（24時間空調系統用）1台 温水ボイラ（79,000kcal/hガス焼き24時間空調系統用）1台 方式：全館14系統自動制御 集中制御方式 展示室及び収蔵庫は単一ダクト再循環方式 その他は一次エア+ファンコイルユニット方式
 衛生 給水：引込管径50mm 受水槽（地階）18㎡ 高架水槽（屋上）4㎡ 排水：汚水・雑排水2系統放流
 消火 ハロンガス消火

選評 横文彦 大高正人 倉本佳亮

敷地は国鉄平駅から車で約5分、いわき市文化センター、カトリック教会と共に四つ角の一隅を占めて、いわき市の文化芸術施設の核を形成している。

今日、日本の各都市の公共施設は必ずしも地の利を得たところに建設し得るとは限らない。しかし重要な公共施設を都市の重要な地に建設する事は都市計画上最も重要な原則の一つであり、そこにも施主であるいわき市のこの美術館に対する真剣な態度がみられるとあってよい。

いわき市立美術館は必ずしも潤沢でない敷地を有効に使いながら、アーバン・デザインとして優れた提案をさまざまなレベルで提案している。主なるエントランスへのアプローチは前面の広場に融合されていて、中央に置かれたヘンリー・ムーアの彫刻とコーナーの樹木が象徴的な存在になっている。しかしこの美術館のもう一つの顔は文化センターと対面する側にある。ここは歩道に沿って彫刻広場が設けられ、建物内部のギャラリー及び軽食堂と視覚的に一体になっている。ギャラリーはエントランス・ホールから一段下って設けられ、落ち着いたコーナーになっている。そして軽食堂は直接歩道側から入れるだけでなく、ガラス・スクリーンによってギャラリーと繋げられる事により、限られた空間の中で優れたアーバンデザインとなっている。またエントランス・ホールは3階の吹抜けをもち、2階ロビーからL字型に東面・

南面に大きなガラス面を通して軸性のある風景が展開する。

そしてこのエントランス・ホールの吹抜け空間を介して常設展示室、企画展示室が夫々1階及び2階に設けられている。サービス・収蔵庫は建物の西端にコンパクトにまとめられ、全体として豊かな空間構成を持ちながら、同時に簡潔な動線関係を維持している。外壁は赤味の花崗岩（ジェットバーナー仕上げ）の乾式工法が用いられ、その表情はやや単調なおもむきではあるが、同時に重厚な仕上げはいわき市の最も重要な公共施設としての十分な風格を有している。しかし、いわき美術館の最も印象的な点は計画の当初から将来、美術館の管理・運営する人々の声が強く全体計画の細部に互るまで反映され、しかもそれが実行に移されている事である。

そしていわき市のように日本で最大の市域をもつ故に巡回展の必要が生まれ、その結果つくられた巡回展用のライトバンがちょうど車庫に入るようになっているなど、所謂ソフトウェアとハードウェアの間に一貫した哲学の結果が見られるのである。

もしもこのBCS賞が建築家、施工者、施主、3者のたゆまざる関係の結果としての建築を評価する賞であるとするならば、その点のみをとっても、このいわき美術館は充分にそのような評価に値するものであるということが出来る。

REVIEW Fumihiko Maki, Masato Otaka and Yoshiaki Kuramoto

Part of the cultural center of the city of Iwaki, the site is five minutes' drive from Taira Station on the National Railways. The culture center, together with a Catholic Church, is on one corner of an intersection. Although today not all urban public facilities of this kind can be built on advantageous sites, such location is important in city planning. The selection of a good site for this art museum demonstrates the sincerity with which the authorities of Iwaki view the problem.

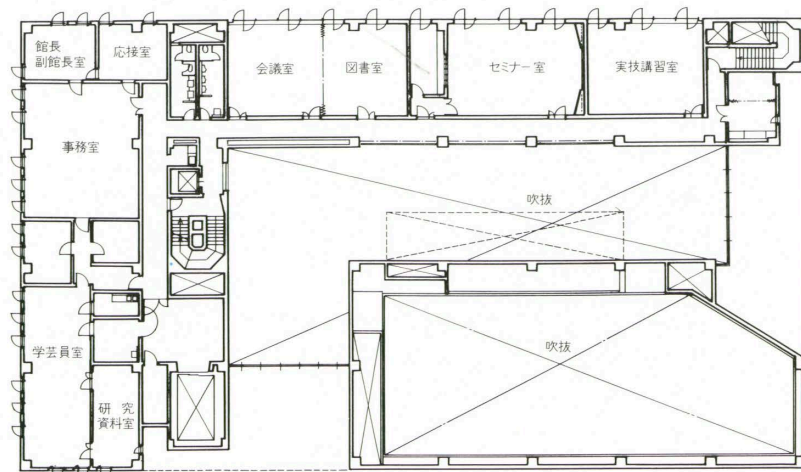
Though the plot is not spacious, it has been used effectively in ways that make

interesting urban-design proposals on many levels. The entrance approach is fused with the front plaza, symbolized by a piece of Henry Moore sculpture and by a tree in one corner.

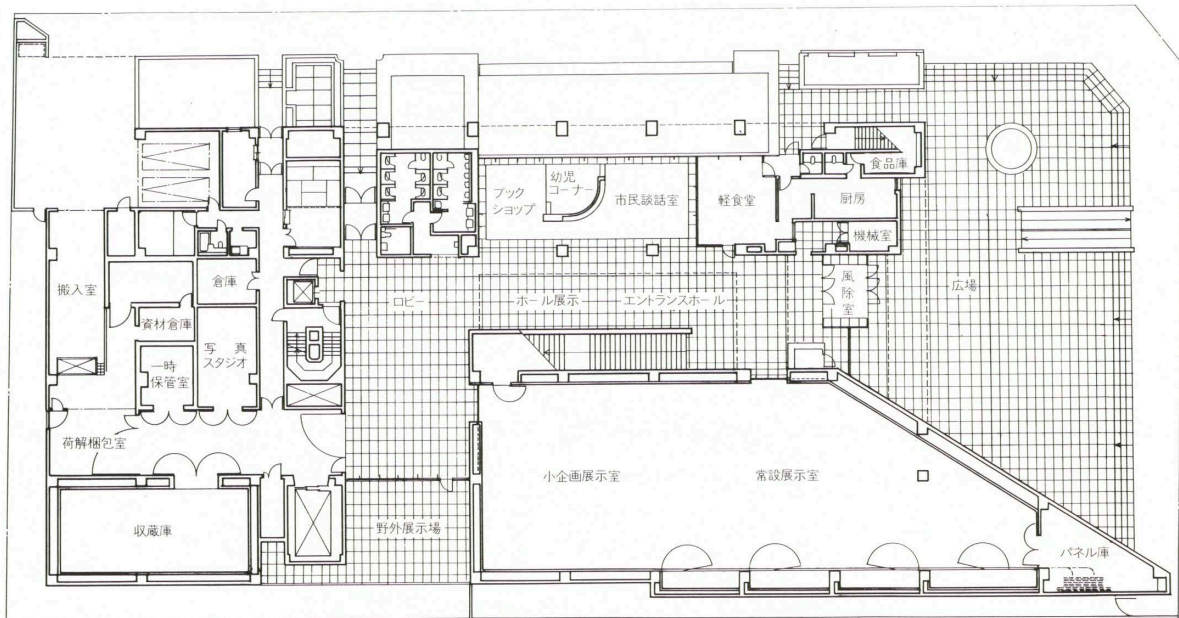
The sculpture plaza on the Culture-Center side is visually united with the gallery and luncheon room inside the building. Locating it a level below the ground has a calming effect on the entrance hall. Direct access to the luncheon room is available from the pedestrian path. Connecting this room with the galleries by means of a glass screen makes excellent use of a limited amount of

space. The space over the entrance hall is open for the height of three stories. On either side of it are located the standing-exhibition gallery, on the first floor, and the gallery for special exhibitions, on the second floor. Service and storage spaces are compactly arranged in the west corner.

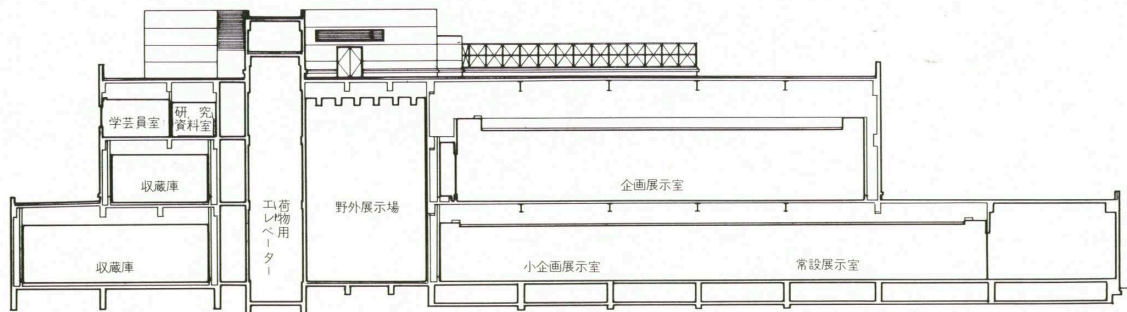
The exterior is clad in jet-burner-finished, reddish granite installed according to the dry method. Though somewhat monotonous, this finish produces an important mood of dignity and mass.



2階平面



1階平面



断面